

# カヤネット新聞

第3号

2009年11月14日(土)

編集長：金尾滋史  
副編集長：島佐代子

全国カヤネズミネットワーク  
info@kayanet-japan.com



定価：カヤネズミへの愛、  
**priceless**

## カヤマップ2008完成へ

### 大阪自然史フェスティバルで公開

カヤマップの歩み

カヤネットでは全国のカヤネズミ保護と生息地の保全を目的とする調査研究活動を展開してきました。その活動の一環として毎年全動のカヤネズミの分布情報を集めたカヤマップを製作し、毎年ごとの情報をホームページなどで公開しています。さらに、カヤネズミが生息する貴重な生態系をより深く理解するための手引きとして、具体的かつ広範囲な自然保護活動の推進に役立つよう「全国カヤマップ2008」を特別版として発行しました。この特別版は、カヤマップの歩みについて詳しく紹介しています。

<http://www.kayanet-japan.com/map/>

全国各地から

目撃情報が報告

書籍が発行された後も多くの皆様から情報を提供いただき毎年データを蓄積してきました。そして、この度「カヤマップ2008」を完成させることができました。まずは十一月十四日、十五日に大阪市立自然史博物館で開催される「大阪自然史フェスティバル」において公開を行い、近畿圏のカヤネットのホームページでも公開します。カヤマップの作成にあたり、貴重なデータや資料を提供して下さった全国の個人、NGO、NPO、研究機関、博物館、行政の皆様、深く感謝します。

### カヤネズミ関係者一同集結「カヤ・サミット」開催!!



カヤネットではカヤネズミをはじめとして多くの生き物が生息する「茅原」の重要性を広く知っていただく機会を持ちたいと考え、二〇〇六年九月十六日に京エコージョーセンター(京都市)においてカヤネズミと茅原保全のシンポジウム「カヤ・サミット」を開催しました。当日は「カヤネズミの四季」の著者であり、日本を代表するカヤネズミ研究者の白石哲先生による基調講演「カヤネズミ研究と保護の意義」をはじめとして各地でカヤネズミや茅原の保全活動に取り組まれる方々からの話題提供等、茅原保全の必要性をテーマとした意見交換会が行なわれました。会場にはカヤネズミをはじめとする自然に興味のある方々が八〇名参加し、有意義な議論が行なわれました。

カヤネットではカヤネズミをはじめとして多くの生き物が生息する「茅原」の重要性を広く知っていただく機会を持ちたいと考え、二〇〇六年九月十六日に京エコージョーセンター(京都市)においてカヤネズミと茅原保全のシンポジウム「カヤ・サミット」を開催しました。当日は「カヤネズミの四季」の著者であり、日本を代表するカヤネズミ研究者の白石哲先生による基調講演「カヤネズミ研究と保護の意義」をはじめとして各地でカヤネズミや茅原の保全活動に取り組まれる方々からの話題提供等、茅原保全の必要性をテーマとした意見交換会が行なわれました。会場にはカヤネズミをはじめとする自然に興味のある方々が八〇名参加し、有意義な議論が行なわれました。

HPでも近日発表

### 全国カヤネズミ・ネットワークとは？

全国カヤネズミ・ネットワーク(略称カヤネット)はカヤネズミ保護を基本理念として、河川敷や里山など人間生活に近い環境にある生物の保護と生息地の保全を進めることを目的として二〇〇一年七月に設立されました。会員は専門家だけでなく、学生や一般のナチュラリストまで幅広く構成されています。

主な活動は、

- 一、カヤネズミ保護と生息地の保全を目的とする調査研究活動
- 二、里山や河川敷に暮らす野生動物と人間生活の関わりを考え、自然環境の保全や生態系への理解を深めるための普及・啓蒙活動
- 三、行政に対する、自然環境・生態系への負の影響を押しやる方策の提案・提言
- 四、一、二のための情報交換

の四つであり、会員限定のメーリングリスト(kayanet)やメールニュース(季刊配信)により、より深い知識や技術の向上、会員同士のコミュニケーションを図っています。

待望の新刊か!!  
**博士号への道**  
「なかなか論文が書けないあなたへ」  
ガクイトルゾ出版  
販売未定・価格未定

かやちゅ検定の公式テキスト  
販売未定

カヤネズミと茅原の保全を学ぶ  
**かやちゅ検定**  
公式テキスト  
販売未定

待望のデビュー写真集発売!!  
ミス・カヤハラ二〇〇九  
「教えてあげたい私の魅力」  
「Yacuu!!」で検索してみました! 密着取材記  
特別号

本誌独自のインタビュー  
カヤネットが伝える「私のカヤネズミの愛」  
SNSミチユシイ 会員はついに百万風越え!  
新政権発足! どうなる日本のカヤネズミ事情  
民チユ党の新国家力を徹底分析  
「茅原にも友愛を」新風議員の心に響く総理の深いイ話  
極秘入手! 世界のカヤネズミ事情こんなことも!

販売未定  
**週刊茅原**

# 全国カヤネズミネットワーク近年の活動紹介

- 大阪自然史フェスティバル 2006に出展(大阪市立自然史博物館)
- 全国カヤネズミ・ネットワーク第一回研究会開催(第五回日本生態学会自由集会・新潟県)
- 第十四回カヤネット調査会(関東部会 実施日 二〇〇六年四月二十九・三十日 場所 埼玉県狭山丘陵)
- 巨椋池干拓地球環境保全ワークショップのPR冊子「巨椋だいきすき!」製作に協力
- 第十六回環境アセスメント動物調査手法に関する講演にて話題提供(講師・島代表「カヤネズミの生活史と調査」)
- 第十五回カヤネット調査会(関東部会 実施日 二〇〇六年七月十六・十七日 場所 新潟県妙高山麓笹ヶ峰)
- 第十一回カヤネット観察会(近畿部会 開催日 二〇〇六年八月十六日 場所 大阪府大和川)
- 第十六回カヤネット調査会(関東部会 実施日 二〇〇六年九月三十・三十一日 場所 西富士、西丹沢)
- カヤネズミと茅原保全のシンポジウム「カヤ・サミット」開催(京エコロジョーゼンター)
- 「全国カヤマップ二〇〇六年度版」掲載
- 第一七回カヤネット調査会(関東部会 実施日 二〇〇七年十月六日 場所 神奈川矢倉岳山麓)
- 大阪日日新聞に取材協力(二〇〇八年子年ネズミに注目! 二〇〇八年一月一日掲載)
- 朝日小学生新聞に取材協力(「ねずみ年だよネズミに注目!」二〇〇八年一月一日掲載)

- 「読売ザKANSAI」に取材協力
- 企画展「ねずみのくらし」共催(三田市立有馬富士自然学習センター)
- 三田市立有馬富士自然学習センター主催「ウイークエンドセミナー」カヤネズミとその仲間たち」に協力(講師・島代表)
- 「全国カヤマップ二〇〇七年度版」掲載
- 第一回カヤネット研修会開催(福井県中池見湿地)
- モニタリングサイト一〇〇〇里地調査カヤネズミ講習会(神奈川県横浜浜市、大阪府吹田市 講師・澤邊久美子)
- 「かんさい自然フェスタ2008」でちくじん関西の08に協力
- 「第三回桂川生物多様性フォーラム」開催に協力
- 水資源機構関紙「水ととも」6月号に取材協力
- モニタリングサイト一〇〇〇(一般サイト講習会に協力(広島大学))
- 第二回カヤネット研修会開催(奈良県生駒市高山町)乙訓水辺フェスティバルに展示協力(京都府大山崎町)「ソトコト」十一月号に記事掲載



カヤネズミと球果 島佐代子さん撮影

## カヤネット会員の書籍



くさのみち  
いぬいさえこ著  
リバネス出版  
ISBN: 978-4-903168-09-8  
判型: A5判  
頁数: 40ページ  
価格: 1575円(税込)  
対象: 中学生、高校生、一般

カヤネットの会員である乾紗英子さんの作品が出版されました。カヤネズミをはじめとする草に生息する動物を通じて人と自然のつながりを改めて確認させてくれる一冊です。乾さん独特のタッチで描かれた動物に目を惹かれます。本の帯には琵琶湖のヨシ紙が使用されています。

☆大学でされていたカヤネズミの研究内容を教えてもらえますか?  
卒業論文では、カヤネズミの繁殖時期と堤防における草の刈り取り時期の関係をテーマにしていました。草刈りをいつすればカヤネズミの繁殖には影響が少ないのか?というところに注目して研究しました。大学院に進学してからには修士論文でカヤネズミの生息適地(

☆まず、自己紹介をお願いします  
現在は兵庫県内にある自然学習センターに勤務しています。大学では3年間カヤネズミの研究をしていました。

☆お仕事でも大学やカヤネットの経験が生かされていますか?  
もちろんです。今の仕事もカヤネットを知り合った方が紹介してくれました。大学やカヤネットで知り合った方々は、学生時代いろいろなことを教えてくれました。その方々の思いが自分の思いを育てています。  
☆澤邊さんにとってのカヤネットとは?  
カヤネズミをとりまくさまざまな人をつな

☆お仕事でも大学やカヤネットの経験が生かされていますか?  
カヤネズミが生息し続けるにはどのような環境要素が必要かをテーマとして研究しました。

## この人に聞け!

今回はカヤネット会員であり、大学でのカヤネズミの研究をきっかけに自然学習などに取り組むお仕事をされるようになった澤邊久美子さんにお話を伺いました。

☆最後にこのカヤネット新聞の読者へのメッセージをお願いします  
毎週のように調査に行っている中でカヤネズミを追いかけてきた学生時代、最後までやり遂げられたのは、そこに毎回違う発見があったからでした。同じ場所でも自然の中はまだまだ知らないことが沢山あります。それに気づいて欲しいという思いで今の仕事に就きました。そういう発見がずっとこの先も見れたらいいなという大人になっても残るような、子どもたちにも残るような自然を見てもらいたいと思います。

カヤネットは、カヤネズミを通して自然の大切さ、楽しさに目を向けて活動するグループです。生き物はすべてが繋がっています。人間もその繋がりの中に入ります。少し歩み寄ってカヤネズミ目線、虫目線、生き物目線で見てみてはどうでしょうか?

## 茅声鼠語

朝が来ると、日が昇り明るくなる。夜になると日が暮れて暗くなる。これは二十四時間という周期の中で起る現象である。そしてこの現象に合わせるように私達人間もその他の生き物も活動をしていく。昼間に学校や仕事に行き、夜は家で寝る。このような生活をしていることからヒトは昼行性の動物だ。一方で、捕食者から逃れようと夜に活動する夜行性の種類もいる。カヤネズミもその一種である。▼では、昼間に夜が来たら夜行性の動物はどうなるのだろうか?二〇〇九年七月二十二日に今世紀最大ともいえる皆既日食・部分日食が日本でも観測できた。そのとき東京でカヤネズミの調査をしてきたカヤネット会員の辻さんは当時の様子をこう綴っている▼「約一時間の短い調査の間に3匹ものカヤネズミに出会えるなんて、なんとラッキーな日だったのだらう。この幸運は、どうも日食がもたらしたものでしょう。調査の途中、欠けた太陽こそ見えなかつたものの辺りがすうつと薄暗くなり、日食が起きていることをはっきり感じる事ができた。カヤネズミにしてみれば、日が暮れ始めていつの間にか動き出したら思ったら、あつという間に朝が来てしまったという感じなのだろう。その短い「夜」に偶然調査をしていたとは、本当に幸運だ。(一部略)▼「わずかな時間の昼夜逆転はやはり、夜行性の生物にも影響しているようだ。それほど太陽の光とは生物の生活にとつて不可欠なものなのである▼物事がめまぐるしく動く現代、ヒトは昼夜を問わず活動するようになってしまった。「せめて日食の時間くらいはあなた達も体を休めなさいよ」とカヤネズミは言っていたのかもしれない。

カヤネットの会員である乾紗英子さんの作品が出版されました。カヤネズミをはじめとする草に生息する動物を通じて人と自然のつながりを改めて確認させてくれる一冊です。乾さん独特のタッチで描かれた動物に目を惹かれます。本の帯には琵琶湖のヨシ紙が使用されています。